

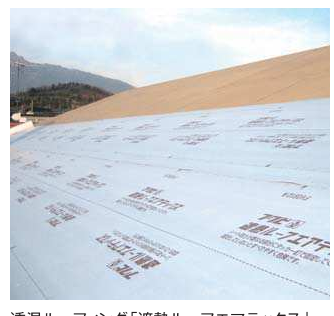
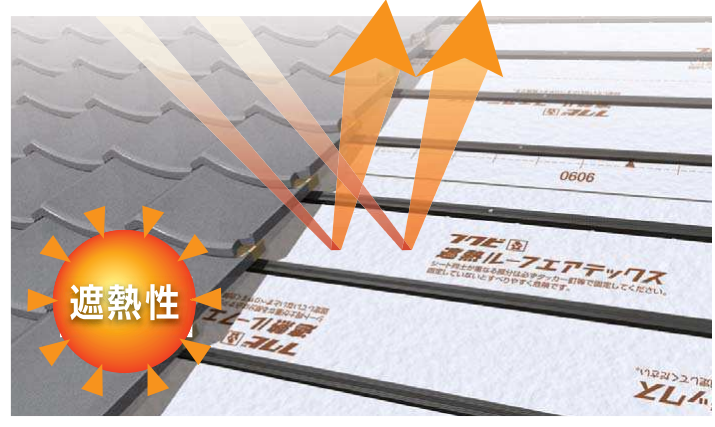
屋根遮熱材

屋根用遮熱・透湿防水シート(透湿ルーフィング)
遮熱ルーフェアテックス

しっかり防水!しっかり透湿!

- 透湿防水シートの「JIS A 6111」に屋根用透湿防水シート(透湿ルーフィング)が加わりました。
 - 「JIS A 6111:2016」における50年相当の耐久性試験をクリアしています。
 - 防滑性に優れ、アスファルトルーフィング約3分の1以上の軽さです。
- ※遮熱ルーフェアテックス重量:11.5kg/40m巻 ルーフェアテックスST重量:11kg/40m巻

遮熱ルーフェアテックス



透湿ルーフィング「遮熱ルーフェアテックス」

高い遮熱性能で、野地板裏面温度を

**6~8℃
低減**

「JIS A 6111:2016」における

50年相当
の耐久試験をクリア

アスファルトルーフィングの

約1/3の軽さ
(11.5 kg/40m巻)

**優れた
防滑性**

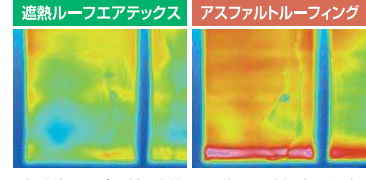


JIS A 6111:2016
屋根用透湿防水シート適合
50年相当の耐久性試験をクリア

遮熱性

野地板裏面温度を **6~8℃低減!**

真夏を想定して、遮熱ルーフェアテックスを施工した場合と、一般的によく使われるアスファルトルーフィングを施工した場合の温度変化をサーモグラフィーを用いた実験で比較しました。

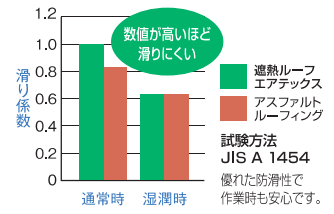


赤外線ランプ照射2時間30分後の野地板裏面温度

施工性

滑りにくく、軽いから **施工性UP!**

遮熱ルーフェアテックスは防滑性に優れ、アスファルトルーフィングの約3分の1の軽さ(11.5kg/40m巻)。施工性も大幅に向上しています。



商品詳細

遮熱ルーフェアテックス 規格

呼称	規格(巾×長さ×厚み)	コード	単品価格(巻)	梱包価格	梱包内容
遮熱ルーフェアテックス	1,000mm×40m×0.9mm	SHATXY			1巻入

遮熱ルーフェアテックス 物性規格表 (下記データは測定値であり、保証値ではありません。)

性能項目	評価項目	単位	JIS A 6111:2016 屋根用透湿防水シート	遮熱ルーフェアテックス
透湿性(透湿抵抗)		m·s·Pa/μg	0.65以下	0.65以下
強度	引張強さ	N	縦、横とも100以上	100以上
	つっぱり針保持強さ	N	縦、横とも50以上	50以上
発火性		—	発火しない。	発火しない。
防水性	水圧	kPa	10以上	10以上
耐久性*1	水圧	kPa	8以上	8以上*2
	引張強度残存率	%	縦、横とも初期値の残存率50以上	50以上*2
熱収縮性	収縮率	%	1.0以下	1.0以下
くぎ(釘)穴止水性	水位低下	—	10個の平均値が5mm以下かつ水の全流出が1個もない。	平均値5mm以下水の全流出なし。

*1 耐久性試験の加熱処理条件には、右表の6種類があります。*2 加熱処理条件「Ⅲ-1」での測定値です。

加熱処理条件

記号	加熱処理条件		備考
	試験温度	試験期間	
I-1		7週間	10年相当
II-1	90±2℃	17週間	30年相当
III-1		26週間	50年相当
I-2		14週間	10年相当
II-2	80±2℃	34週間	30年相当
III-2		52週間	50年相当

注意 使用時のご注意

- 屋根根元には使用しないでください。
- 屋根勾配は1寸以上としてください。ただし屋根材(瓦・化粧スレート・金属系等)に、1寸より大きい勾配指定がある場合は、その指定に従ってください。
- 屋根材と本製品の間の空間は湿気排出が可能な納まりとしてください。特に化粧スレート屋根や金属屋根の場合は、垂木を2重にするなど、通気下地屋根構造で施工してください。

- 野地板は隙間をあけず段差なく施工してください。
- ステープルは、本製品重ね合わせ部分に、約200mm間隔で留め付けてください。
- 壁面との取り付け部は壁の下地に沿って250mm以上立ち上げてください。
- 施工中、ステープルや釘の打ち損じにより、本製品を損傷(破れ・穴あきなど)した場合は、ステープルが野地板の隙間に打ち込まれた場合などは、漏水のおそれがありますので、防水テープで補修してください。
- 本製品表面に防水テープを一旦貼ったら剥がさないでください。
- 本製品には、継ぎ目がある場合がありますが、機能上、問題ありません。

- 本製品施工完了後は、2週間以内に屋根材を施工してください。
- 防雨・防錆加工された棟木等は薬剤が十分に乾燥していることを確認してください。
- 本製品単体で防水を保障するものではありません。施工後に降雨が予想される場合は濡れないよう養生をお願いします。
- 本製品施工後にかなりの降雨が予測される場合は、ステープル部や釘打ち部の防水の観点から、保護シートで覆うなどの処置をお願いします。



施工説明書